

上伊那のトンボ

上伊那は、東西に険峻な南アルプスと中央アルプスに挟まれ、そこから流れ出す清流が伊那谷を南北に流れる天竜川へと注ぎ込んでいる。その天竜川の両岸には段丘があり、上段下段ともに平地が広がり田畑が続く。大きな湿原や自然湖沼は数多くはないが、溜池が点在し、山々は森林に覆われ自然豊かな土地である。これらの地に、昔ほどではないが比較的多くのトンボを見つけることができる。

日本トンボ学会名誉会長、信州昆虫学会名誉会長の枝重夫氏の支援のもと、酒井、大村、小池そして小笠原等が 2011～2017 年に調査した結果と、過去の調査や文献等を検討し、今回 71 種を上伊那のトンボとして報告することにした。

< 1 > 上伊那のトンボ調査等の歴史

1 昭和初期の標本 (1929 年～1931 年が主)

上伊那創造館には、昭和初期上伊那教育会が調査し保管したトンボの標本がある。2014 年 10 月 11 日に小笠原が資料室にて標本 27 種を同定した。採集日が書かれているものは昭和 4 年 (1929 年) から昭和 6 年 (1931 年) であることから、この時期の標本と思われる。

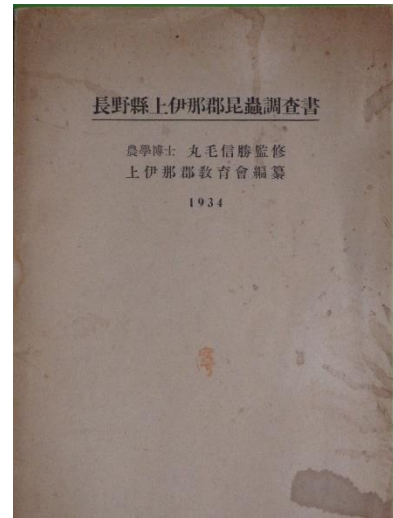
() 内は、そこに書かれていた原文の種名である。標本は以下の通りである。

ギンヤンマ カトリヤンマ オニヤンマ ヒメクロサナエ (ヒトスジサナエ) ダビドサナエ (ハキサナヘトンボ) ヤマサナエ (ヒメヤマサナヘ) オナガサナヘ ウスバキトンボ ミヤマアカネ アキアカネ マユタテアカネ ノシメトンボ ショウジョウトンボ (セウゼイトンボ) シオカラトンボ (シホカラトンボ) シオヤトンボ オオシオカラトンボ (オホシホカラトンボ) コヤマトンボ ハッチョウトンボ (ハッチャウトンボ) アオハダトンボ (アヲハダトンボ) ハグロトンボ アサヒナカワトンボ (カハトンボ) およびヤナギトンボ) オツネイトンボ (ヲツネイトンボ) オオアオイトトンボ (アヲイトトンボ) キイトンボ タカネトンボ (種名記入無し) コサナエ (ヒメサナヘトンボ) ムカシヤンマ (ギフヤマトンボ)



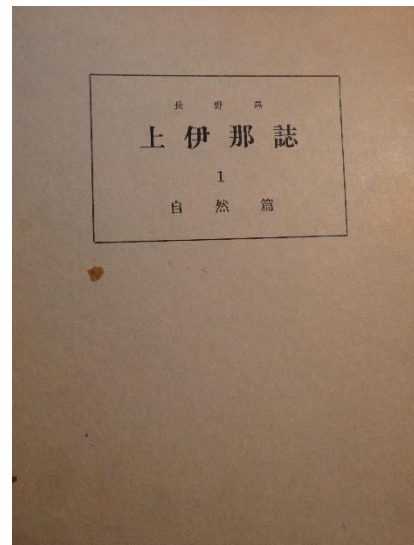
2 「上伊那昆虫調査書」 (1934年) P74-75

1934年の丸毛信勝博士監修により出版され上伊那の記録、上伊那教育会「上伊那昆虫調査書」(1934年)には、次の25種が上伊那産として記録されている。「ギンヤンマ、カトリトンボ、オニヤンマ、ヒトスジサナエ、ハキサナエ、ヤマサナエ、オナガサナエ、ウスバキトンボ、ミヤマアカネ、アキアカネ、マユタテアカネ、ノシメトンボ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、シホヤトンボ、オオシオカラトンボ、コヤマトンボ、ハッチョウトンボ、アヲハダトンボ、ハグロトンボ、カハトンボ、ヤナギトンボ、ヲツネトンボ、アヲイトトンボ、キイトトンボ」である。これは現存する標本に類似していることから、この標本を参考にしたものと思われる。ただし、標本の中のコサナエ、ムカシヤンマおよびタカネトンボの3種は入っていない。



3 「上伊那誌自然編」(1962) p992

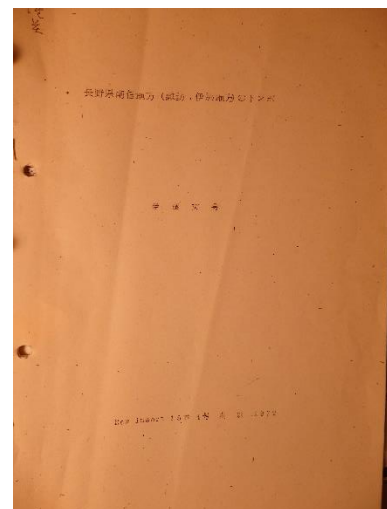
1962年(昭和37年)上伊那編纂会が発刊した「上伊那誌自然編」のトンボ目録では67種が報告されている。この67種に関しては、シオカラトンボが書かれていないことや北海道にしかないカラカネイトトンボが記載されるなど誤記載がある。



3 「長野県南信地方(諏訪・伊那地方)のトンボ」 (1972) New Insect 15 巻4号別刷

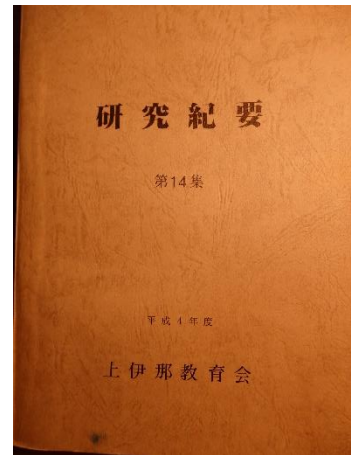
1972年(昭和47年)、伊藤文男氏はNew Insect 15巻4号で南信では19科74種を確認し報告している。上伊那に関しては「上伊那編纂会の上伊那誌自然編(1962年)に記載されているトンボ目録69種(実際は67種)の中には今後再確認が必要と思われる数種が含まれている」と述べ、上伊那誌のトンボ目録67種から13種(※1)を除き、新たに発見した5種を含め上伊那のトンボは59種(実際はネキトンボを加え60種)と発表した。

※1



4 「上伊那教育会の研究紀要 第13集 第14集」(1990～1991)

1990年～1991年 小笠原は伊那市を中心に2年間上伊那のトンボを調べ、上伊那教育会の研究紀要第13集に「伊那市のトンボ」、第14集に「上伊那のトンボ」を發表し、2年間で上伊那のトンボ49種を確認したと報告した。



5 ハッチョウトンボをめぐって

1988年(昭和63年)駒ヶ根市南割公園でハッチョウトンボが確認された。公園内に球場施設の建設の案が出たのを機に、保護をしようということになり、「ハッチョウトンボを育む会」が結成され、生態研究とともに生息環境整備が現在も行われている。平成23年には、駒ヶ根市で第24回全国トンボ市民サミットが開催された。New Entomol, 60(3, 4):72～76 2011信州昆虫学会誌には「特集子どもたちへの昆虫教育と保護・保全『子どもと取り組むハッチョウトンボの保護活動』」と題した吉田保晴氏のこの地域での実践が報告されている。

また、伊那市新山では2004年(平成16年)ハッチョウトンボの大量発生が確認された。その後、新山には「トンボの楽園」が作られ整備された。駒ヶ根、伊那のどちらも、昔からハッチョウトンボがいたことは知られているようである。新山に関しては2007年の信州昆虫学会年次報告において枝重夫氏が「伊那市新山のトンボ」36種を發表した。その後41種まで確認し發表している。

その後ハッチョウトンボは飯島町や中川村でも生息を確認した。



6 「トンボ博士になろう 活動報告書」(2012)

2012年度「NPO法人伊那谷自然楽校」が子どもゆめ基金助成事業で「トンボ博士になろう 活動報告書」に新山を中心に伊那市内で53種を確認し、更に、マルタンヤンマとチョウトンボを目撃したと發表した。枝重夫氏の指導のもと酒井昇治氏、大村洋一氏、小池文男氏の3名が中心となり調べた成果である。



7 2011年～2017年にかけて、酒井昇治・大村洋一・小池文男・小笠原幹夫等は上伊那でのトンボ64種（サラサヤンマを除く）を確認した。また、2002年に中川村でムカシヤンマの記録を確認した（中川村村誌）。このことより、2000年以降、上伊那では65種を確認したことになる。

今回の調査に関し、日本トンボ学会名誉会長・信州昆虫学会名誉会長の枝重夫先生には調査に同行していただくときもあり、適切なるご助言をいただいた。感謝申し上げます。

8 まとめ

以上の結果、伊藤文男氏の研究以降、上伊那での確認種は71種となった。そのうち現在6種を2000年以降確認していない。 ※2 ※3

※1 1972年、伊藤文男氏は上伊那誌の記録67種に対し

→不確実として以下の13種を除いた。

エゾイトトンボ、アオヤンマ、モイワサナエ、キイロサナエ、カラカネトンボ、トラフトンボ、エゾトンボ、カオジロトンボ、タイリクアキアカネ、カラカネイトトンボ、ミヤマカワトンボ、コオニヤンマ、ホソミモリトンボ

→新たに以下の6種を加えた。

カトリヤンマ、クロサナエ、オオヤマトンボ、シオカラトンボ、マイコアカネ、ネキトンボ

$67-13+6=60$ 種

※2 今回の調査で、伊藤氏の記録に10種を加えた

→※1で除かれたが、再度確認した3種。

ミヤマカワトンボ、コオニヤンマ、ホソミモリトンボ

→新たに加えた8種

ウチワヤンマ、ヒメサナエ、アオサナエ、オオトラフトンボ、マルタンヤンマ、ヨツボシトンボ、チョウトンボ、ハネビロエゾトンボ

$60+3+8=71$ 種

※3 1972年伊藤氏の報告の中で1972年以降確認していない5種

モノサシトンボ、コシボソヤンマ、カトリヤンマ、オジロサナエ、メガネサナエ
2000年以降はマイコアカネ1種を確認していない

$71-5-1=65$ 種

<資料>上伊那郷土館の標本 数字は昭和年.月.日

ギンヤンマ

カトリヤンマ 宮田村 6.8.1 伊那富宮木 4.9.6

オニヤンマ

ヒメクロサナエ（ヒトスジサナエ）美篤 6.5.1

ダビドサナエ（ハキサナエトンボ）川島 6.7.3 ? 4.5.22

ヤマサナエ（ヒメヤマサナエ）中沢 4.7.11

オナガサナエ

ウスバキトンボ

ミヤマアカネ
アキアカネ
マユタテアカネ
ノシメトンボ
ショウジョウトンボ (セウゼイトンボ)
シオカラトンボ (シホカラトンボ)
シオヤトンボ
オオシオカラトンボ (オホシホカラトンボ)
コヤマトンボ
ハッチョウトンボ (ハッチャウトンボ) 中沢 4.6. 光前寺? 6.9.4
アオハダトンボ (アヲハダトンボ) 中沢.7.11
ハグロトンボ
アサヒナカワトンボ (カハトンボ およびヤナギトンボ)
オツネントンボ (ヲツネンイトトンボ)
オオアオイトトンボ (アヲイトトンボ)
キイトトンボ
タカネトンボ (種名記入無し)
コサナエ (ヒメサナエトンボ) 美篤 6.5.1
ムカシヤンマ (ギフヤマトンボ) 川島 6.7.3